

CONFORT

インテリア・デザイン・建築を結ぶ「隔月刊コンフォルト」

平成9年12月5日第三種郵便物認可 2008年4月1日発行(年6回隔月刊1日発行)

2008 No.101 April

4

天然林の材、人工林の材、木目の建材、それぞれに。

特集

木の適材適所

柿沼守利と山下建設の木の仕事

新しい木の家 服部信康 細田みぎわ 仲亀清進

頼れるスギで再生。古民家は未来に向かう 安藤邦廣

日本の人工林とつくる、これからの木造

六車誠二・六車工務店 / 芝静代 / 杉岡製材所 / 丸川木材

木材の個性があらわすこの店の遊び心

トネリコ / KURU / エンドウキヨシ / 村山雄一

「吉島家住宅」という教科書 吉島休兵衛忠男

p.134~p.140中、資料請求番号があるものは、
p.160左に縦じ込んであるハガキで資料請求できます。

グッズ&スペース

現代の新しい空間には、 新しいコンセプトの家具を “arti(アルティ)”, ショールームと共にデビュー



企画はMAREEの岡本玲子と岩立マーシャ。ホテル、オフィス、レストラン、プティック、スパ・クリニックとシチュエーションが設定され、さらにそれらを横断するような小椅子のシリーズを加えて、デザイナーがキャストイングされた。藤森泰司、平田晃久、岩崎一郎、ステイプ・リドバリ、グエナエル・ニコラ、岡田哲史、関洋、高橋昌司、植木莞爾といったメンバー。オリジナルのテキスタイルは、NUNOの須藤玲子が担当した。ひとつひとつの製品を見てゆくと、それぞれが新し

い課題に取り組み、デザインを練り上げていったことが窺える。一気に多数のアイテムが揃えられたことに驚かされるが、全体を捉えると、そのコンセプトがよくわかる。実際の場所においたときに真価を発揮しそうな製品。つまり設計者やデザイナーが空間と一体になった状態をすぐに想定できそうな製品なのである。ありそうでなかった国産高級ブランドといえるかもしれない。



上右/フレームにチタンを使った“Titanium”。デザインは岡田哲史。上左/ホテル用の“Intersect”。グラデーションになったオリジナルのファブリックを使用。デザインはグエナエル・ニコラ。片アームのソファで¥414,750。中/ワークスペース用の“Bureau”。デザインは藤森泰司。オリジナルファブリック張りの両アーム1人掛けソファで¥276,150。下/“Sorte”。デザインは関洋。一番奥のウォールナット材仕様で¥173,250。



東京都港区南麻布4-11-30 南麻布渋谷ビル1F
tel 03-5449-2501 info@arti-tokyo.com
ショールームは予約制。資料請求番号1001

右/「mizu-no-wa 水の輪」ブラック。中/「botan-yuki 牡丹雪」シルバークレー。左/「hana-no-niwa 華の庭」ポルドー。自然をモチーフにしたグラフィックが透かし技法で描かれている。昼と夜で表情が違うのも一興。いずれも幅は30~120cm、高さは10~270cmで製作可能、1cm単位でオーダーできる。参考価格、90x180cmの場合、ロールスクリーン完成品¥88,200、和紙スクリーン¥55,650。【トソー-GRACIER】tel 03-3552-2293 <http://www.toso.co.jp/gracier/sukigami.html> 資料請求番号1002

透かしの技法が描き出すエレガントな柄 越前手漉き和紙のスクリーン「SUKIGAMI」



トソーより、手漉き和紙のスクリーン「SUKIGAMI」(すぎがみ)が発売された。伝統技術から新開発された透かし技法により、複雑でエッジのある模様が立体的かつ繊細に表現されており、これまでにない和紙スクリーンとなっている。そのパターンデザインを手がけたのはデザイナーの大塚則幸。従来の和紙スクリーンは和風か中途半端なモダンにとどまっているものが多かった。そこで、コンテンポラリーなデザインで洋空間にもマッチするものを考えたという。さらに、光をうまく利用すること、和紙でしか出来ない表現、などといったアプローチから、透かしで模様を描くことを導き出した。パターンのモチーフとなったのは、花や葉っぱ、水紋、雪といった自然の事象。越前和紙ならではの素材ながらも洗練されたテクスチャーに、大胆に抽象化されたパターンが浮かび上がる。和洋どちらの空間にも合うエレガントなスクリーンが出来上がった。



保存版

フローリング新潮流

樹種・デザイン・機能